

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.3
平成25年5月13日

406人でも1000人の歌声を響かせて一心に響く合唱を目指して

今年度から全校朝礼の始まる前の時間を使って全校合唱の練習をしています。分離して1000人規模の学校から406人の学校になりましたが、体育館に響き渡る歌声は、決して半分以下の声量ではありません。むしろ、一人一人が大きな口を開けて、心を込めて歌っているように感じました。この調子で練習を積み重ねていけば、きっと皆の心に響く合唱ができると確信しています。1000人の歌声に負けない、406人の歌声をお届けできることを目標にしていきたいと考えています。



全校朝礼の話よりー努力に対して応援しよう（5/13）

連休が終わって、2週目です。学校生活のリズムはもうすっかり戻ってきましたか？さて、今日は、この鳥のお話をしますね。何の鳥でしょう？「ツバメ」ですね。見たことありますか？

大きさは17 cmくらいです。毎年、南の国から春になるとやって来ます。（季節ごとに場所を変えて移動する鳥を「渡り鳥」といいます。）だいたい3,000 kmを飛んできます。（東京から沖縄県までがだいたい1,500 kmですから、その2倍です。）みなさんが自転車を使えば7日、休まずにずっと歩いて30日もかかります。あの小さな体でその長い距離を飛んで、ツバメは、同じ町、同じ軒下の巣に帰ってくるのです。



ツバメは戦うことが苦手で、くちばしは短く、体も大きくなく、相手を脅す大きな声もありません。大切な巣を守り通す力をもっていないのです。そんなツバメたちが選んだ巣作りの方法は、私たち人間と共にいることでした。ネコやヘビ等の天敵はもちろん、カラス等、他の鳥からの襲撃を防ぐために、人間の家の軒下などに巣を作っているのです。私たち人間も昔からそのことをよく知っていて、家の軒下にやってきたツバメたちを優しく見守り、大事にしてきたのです。校長先生は、小さい頃、ツバメを捕まえようとして、親にすごく叱られました。そんないたづらをしないでください。

ちょうど今頃、ツバメは、巣を作るため、材料のわらや小枝、泥などをせっせと運んでいます。巣ができると、今度は卵を産みます。4個から5個くらい産みます。ヒナがかえるとツバメのお父さんとお母さんは大忙しです。ヒナが飛べるようになるまで、せっせと餌の虫をつかまえて運んできます。飛んでいるツバメがヒラリと方向を変えることがありますが、飛んでいる虫を見つけたときに、その虫を空中でつかまえるために方向を変えているのです。ツバメ返しと呼ばれたりする動きです。

1羽のヒナが、飛べるようになるまでに食べる虫の数は、2,000匹だそうです。ヒナが5羽ですと、全部で10,000匹の虫を運んでくることになります。それだけの虫を探すのは大変なことです。それをコツコツと毎日行って、ツバメのお父さんとお母さんはヒナを育てるのです。ヒナが巣立つまでに10,000匹もの虫を集めて食べさせているのです。

そんなヒナの成長を、ツバメたちの努力を、人間たちは見守り、応援し続けてきたのです。みなさんは、一生懸命頑張っている友達を心から応援していますか？

ツバメたちを応援しているように、頑張っている友達を心から応援して下さい。そして、自分も頑張ろうという気持ちをもって欲しいと校長先生は思っています。